

連携室だより

2017.1 vol. 129

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）



新年明けまして おめでとうございます。

平成28年を振り返ってみますと、国内では4月に熊本で震度7の地震が2回起き大きな被害が出ました。7月には舛添要一東京都知事の辞職に伴う都知事選があり小池百合子・元防衛相が初当選、築地市場から豊洲市場への移転に種々の問題があることが判明し移転延期となる一方、2020年東京五輪・パラリンピックの開催経費も莫大な額になる事から、見直しが行われています。8月にはリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで日本人選手の活躍といった明るい話題もありました。国際的には、6月に国民投票でイギリスのEU離脱が決まり、11月にはアメリカ大統領選で民主党候補のヒラリー・クリントン前國務長官を破り、共和党候補ドナルド・トランプ氏が選ばれました。12月には隣国韓国で朴大統領の友人女性による国政介入事件が明るみに、韓国国会での大統領弾劾訴追案が可決されました。このように、28年は国内的にも、国際的にも予想しなかった大きな動きがあった1年だったように思います。

病院の現状

平成27年に引き続き、28年も救急患者さんの増加、新規入院患者さんの増加はありましたが、在院日数は14日前後と短くなり、病床利用率は80%台後半で推移しています。11月には、鹿児島県、鹿児島市医師会のご理解をえ、病院玄関に心臓病・脳卒中救急センターという名称を掲げさせていただきました。同時に急患対応がスムーズに実施できることを目的として、第二循環器内科医長の田中秀樹医長を救急科医長に指名しました。また、心臓病・脳卒中救急に対応すべくオンコール体制を敷いています。まだまだ改善しないといけない点がありますが、ご利用のほどどうぞよろしくお願い致します。

循環器診療の充実目的で計画していたハイブリッド手術室設置は大幅に遅れましたが、今年度中には完成します。ハイブリッド手術室は、手術台と血管X線撮影装置を組み合わせた治療室であり、ハイブリッド手術室を整備することで、1) 胸部大動脈瘤ステントグラフトをより安全に行える 2) 経皮的冠動脈インターベンションと冠動脈バイパス術との組み合わせることができる 3) 大動脈弁狭窄症に対する経皮的カテーテル大動脈弁置換術ができる 4) エキシマレーザーシースによるペースメーカーリード抜去術ができる 5) 閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術とバイパス術の組み合わせをおこなえることなどが実現します。現状は、鹿児島県では実施できず、患者さんは他県に行かざるを得ない状況にありますので、ハイブリッド手術室が完成時には施設基準を取得し、鹿児島県内で対象患者さんの治療が完遂できる様さらに連携を強化していきたいと思っております。

昨年整備した外科系病棟のハイケアユニット（HCU）も順調に運用できています。外来棟増築に関しても予定場所に江戸時代の遺跡があることが判明し、スタートが大幅に遅れましたが、今年夏には完成する予定です。

診療報酬関係では、28年度にDPC II群の指定を受けました。ここ数年、病院機能の向上に努めてきたことに加え、当院管理型の初期研修医の先生たちが増加、27年度は7人、28年度は12人となり、29年度は15人（当院としては、初めてのフルマッチです）の予定です。基幹型初期研修医の増加が、DPC II群の指定につながったものと思います。ただ、人数が増えると今までの研修医の先生達の研修時と同様の研修であっても、一人当たりの満足度は低下してしまいます。また新専門医制度も始まろうとしています。初期研修・後期研修体制の一層の充実のみでなく、病院全体のさらなる機能upを目指す必要があります。

地域医療構想や、厳しくなる診療報酬改定など医療界は大変な時代となってきていますが、真に地域に必要とされる病院になれるよう職員一丸となって努力して参りますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

（文責：院長 花田 修一）

幹部年賀状



副院長
森山 由紀則

明けましておめでとうございます。

昨年の診療報酬の改定は、地域包括ケアシステムの推進を目指し病床の機能分化、連携が一層進められました。重症度、医療看護必要度の見直しも行われ、急性期病院では7対1入院基本料を維持出来るか10対1の分割導入が包括ケア病棟への転換かと大問題となりました。当院は全診療科の協力で25%という高いハードルをクリアし善戦しているところですが、経営は厳しさを増しており機構内の大半の施設は増収減益の傾向を強めています。こうした中、平成29年度の国家予算（一般会計）が決定されました。総額は過去最高の97兆4500億円となりましたが、歳入の1/3を新規の国債発行に頼るといふ相変わらずの借金漬けの状況です。膨張が続く社会保障費の抑制策として高齢者の医療費自己負担額引き上げや保険料の軽減措置の縮小や高額薬剤の価格見直しなど次々と医療介護費の圧縮が計画されています。患者の自己負担が重くなることで受診抑制を招きかねないことに加え、医療経営にもさらなるマイナス要因として作用する懸念があります。昔は医療で経営の話はタブー視されていましたが、今や医師は当然のことながら全職員が強い経営意識をもって安全で質の高い医療に取り組むことが必須な時代となりました。患者さんや紹介医療機関の信頼を得るためにも継続的な努力が大切です。今後とも地域の医療機関との役割分担、連携の強化を目指して、昨年末に開設した循環器、脳卒中の救命救急センターに加え、その他の分野に於いても要望の強い救急体制作りを各論から発展させる段階にあると考えております。本年もよろしくお願い申し上げます。



統括診療部長
中島 均

明けましておめでとうございます。

昨年はお隣の熊本県で大地震があり、大変な思いをされた方も多いと思います。文字通り大規模災害、特に大地震は日本国内いつ何時どこでも起こるということを感じさせられた次第です。私共鹿児島県も桜島を抱え、いつ起こってもおかしくない大噴火に備えることは、鹿児島県民特に地域に貢献する使命を持った地域の中核病院にとって喫緊の課題と思われまふ。昨年は当院で第1回大規模災害訓練を実施し病院職員一同危機管理について学習し、今後の対策を検討致しました。今年は2回目の大規模災害訓練も計画しており、鹿児島県下の病院や救急関係者の方々にも参加していただく予定です。

また、災害対策の他、昨年は心臓病・脳卒中救急センターも新たに開設し、今まで以上に救急医療にも力を入れて取り組んでおります。もちろん従来からの循環器、脳卒中、がんの専門施設としてさらなる高みを目指しております。甚だ微力ではありますが皆様のお役に少しでも立てるよう努力して参ります。

本年も何卒よろしくお願い致します。



臨床研究部長
城ヶ崎 倫久

明けましておめでとうございます。

昨年は4月に熊本で地震が起こり、私が育った実家も半壊しました。夏にはリオ・オリンピックがあり、メダル獲得に日本中が湧きました。4年後の東京オリンピック開催が待たれます。海外では、英国がEUを離脱し、アメリカ合衆国ではトランプ氏が大統領に選出され驚きました。起こりえないことが起こり、また自然災害も頻発し、不確定な時代に突入した感じですが。

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科の連携大学院の梅橋功征君と山本将義君は大学院3年生となり、これまでの成果をまとめる時期となりました。今年は英文雑誌に投稿して、めでたく医学博士になってもらいたいと思います。何が起こるか分からない時代でも、一步一步研究努力していく姿には天使も微笑みかけると思っています。

病院の研究業績として学会発表、論文発表、研究資金獲得、治験達成状況などを国立病院機構本部が総合的に評価して順位をつけているのですが、昨年の当院臨床研究部の国立病院機構内での順位は143病院中14位と過去最高でした。これも職員の方々の忙しい診療の合間で行った臨床研究のお蔭と感謝いたしております。今年もよろしくお願い申し上げます。



メディカルサポート
センター長兼
地域医療連携室室長
藺田 正浩

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、患者様のご紹介、受入れ等にご協力いただきありがとうございました。

平成18年2月に、当センターが鹿児島医療圏における地域医療支援病院として鹿児島県の承認を受け、以後、多くの先生方からの多大なご指導とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、南九州地区において、初めてエキシマレーザーシステムを用いたリード拔去が出来るようになりました。今年、ハイブリッド手術室を整備し、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）の実現に向けて準備しております。

先の診療報酬改定に伴い、地域包括ケアシステム推進のため、退院支援の積極的な取り組みや医療機関間の連携等がますます必要とされてきております。メディカルサポートセンターはこれまで通り、地域医療連携室（医療福祉相談、転院・退院相談）、入院支援（入院時早期ケア・相談）、がん相談支援センターの三本柱で運営していきたいと思っております。また、救急受入れ強化のため、心臓病と脳卒中の救急センターとしてホットラインを設けましたのでご利用ください。

本年も、“顔の見える連携室”を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長
太田 春彦

新年明けましておめでとうございます。

日頃より当院の運営につきまして種々ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

昨年4月の診療報酬改定の大きなところでは、7対1病床の算定要件の厳格化が行われ、いくつかの急性期病院によっては病床の変更などの対応をされたところもあったのではないのでしょうか。続く30年度改定は消費増税が先送りになり財源確保が難しい中、これもかなり厳しいものになるだろうと言われております。

高齢化が進む中2025年問題等膨らむ医療費に対する国の財政危機などこれから医療機関を取り巻く環境をいろいろ考えると憂鬱になりがちですが、こういう時代だからこそ病院運営の中で事務職員の役割は何か、何ができるのかを真剣に考え、それを行動に移していかなければならないのではと思っております。

28年度改定の目的として地域包括ケアシステムの推進や医療機能の分化・強化・連携の推進を謳われていました。それには行政等関係機関を含め急性期、慢性期病院同士のより一層の結びつきが必要ではないかと考えています。

26年度に私が当院に着任して始めた連携病院の事務（部）長さんとの情報交換会や事務職員の方々との勉強会も3年目を迎えました。内容的にはまだまだ十分ではありませんが、今年も事務部門の連携強化を進めさせていただきたいと考えています。

しかしながら、私は本年3月末を持って定年退職となり鹿児島を離れますので引き続き取り組むことができないのが心残りです。ですが後任者や在職者には継続してもらい、当院が皆様に信頼され役に立つ病院となるよう事務部一丸となって取り組んでいきたいと思っております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



看護部長
上別府 昌子

謹んで新年のご挨拶申し上げます。

平素より、皆様のご支援、ご協力をいただきお礼申し上げます。

昨年は、「地域医療構想を後押しする改定」とも言われる診療報酬改定で、これまでに以上に病床機能の適切な分担と連携について求められました。私たちの取り組みの一つとして当院からの受け入れをしていただいている病院へ連携室スタッフと病棟看護師も同行し、自らのケアの評価と「連携」の必要性を再認識でき、そして、当院の地域で担うべき役割を自覚しているところです。また、昨年度は新たに「認知症看護認定看護師」が誕生し、10分野14名の認定看護師が地域での学習会・研修会を行っています。研修受け入れと共に出向いての研修も行います。多くの施設からの参加や要望をお待ちしています。

「酉」は「取り込む」に繋がるといわれ、そこから運氣も取り込み、物事が頂点まで極まった状態になる年と言われております。皆様にとってよい年になりますよう心から願っております。本年もどうぞよろしくお願い致します。

大規模災害訓練

当院での大規模災害訓練を終えて

さる11月19日の土曜日に当院で初めてとなる大規模災害訓練を実施しました。1914年1月12日に発生した大正桜島大噴火による地震と同規模、具体的には震度5強の地震発生を想定しました。土曜日の訓練であったにもかかわらず、162名の方に参加してもらい無事実施することができました。

そもそも私どもの国立病院機構は、大規模災害発生時全国143病院全体として対応するネットワークを構築しております。厚生労働省のからの要請で国立病院機構本部に災害対策本部を設置し、国立病院機構で指定している東京の災害医療センターを含む5つの基幹災害拠点病院、30の災害拠点病院、その他の病院群で協力して災害現場へ医療班を派遣しています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、全国の国立病院機構から約1500人の職員を被災地に派遣しました。当院でも東日本大震災では発生後1週間、2016年4月14日の熊本地震時には4日後に6人（医師1名、薬剤師1名、看護師2名、事務2名）からなる医療チームを派遣しております。今までは他の地域への援助を行う事で災害医療に関わってきましたが、このように日本中いつでもどこで起こるかもしれない地震に備えることは、お隣の熊本の地震を例に出すまでもなく重要であろうと思われます。

今回第一回目の訓練ということもあり、他院からの見学は遠慮していただきましたが、来年2回目以降は他院の関係者の見学を含め、鹿児島市救急隊とも協力しながら当院として鹿児島県の大規模災害対策に貢献していければと思っています。

(文責：統括診療部長 中島 均)



▲ キックオフミーティング



▲ 被災者搬入



▲ 被災者搬入



▲ トリアージセンター



▲ トリアージセンター



▲ トリアージセンター



▲ 赤エリア



▲ 赤エリア



▲ 赤エリア

当院初めでの大規模災害訓練を実施して

平成28年11月19日（土）に当院において初めてとなる「大規模災害訓練」を行いました。

これまでは副看護師長が中心となって作成した「災害時アクションカード」を活用し、火災・防災訓練を実施していましたが、今年4月、熊本で発生した震度7の地震を受けて、桜島を有する鹿児島でも同じ経験をやるかもしれないという危機感が強まり、熊本出身の事務部長をはじめ病院幹部の強い決意のもと「災害訓練チーム」を立ち上げました。

チームは統括診療部長、事務部長、副看護部長、庶務班長、外来看護師長、副看護師長、救急看護認定看護師で構成され、訓練時期や規模などの計画やそれまであった災害マニュアルを見直し、災害時における職員の動きをより具体化した「災害時職員行動マニュアル」を新たに作成しました。

7月の管理診療会議で訓練日やマニュアルが配布され、いよいよ訓練に向けて本格稼働しました。マニュアルに関しては各職場や訓練経験者の意見を得ながら再検討も同時に進めました。災害訓練チームには他施設での経験がある企画課長、看護師長、医療安全管理係長が加わることになり、より具体的な計画が進みました。

大規模災害訓練はほとんどの職員が初めて経験することであり、イメージも膨らまない、トリアージ法や災害受け入れの基本的な姿勢等についても知識が乏しいであろうと判断し、11月1日に「災害訓練キックオフミーティング」と題し研修会を行いました。

まず事務部長が訓練の目的を説明し、職員一丸となって取り組んで欲しいと志気を高めて頂き、その後救急認定看護師からトリアージ等を含めた災害医療について、医療安全管理係長からは具体的な職員の行動及び被災者の導線、訓練の注意事項等の説明を行いました。研修の参加者は148名と会場に入りきれないほどであり、職員の訓練に対する意識の高さがうかがえました。

研修後、各担当エリアで話し合いが進められるにつれ、質問や他の施設の訓練状況がビデオなどで見ることはできないかなど、徐々に訓練への緊迫感が伝わってきました。また、被災者の想定の見直しも行い、模擬被災者となる看護学生へのオリエンテーションも進めました。

訓練前日、チームメンバーは天気予報では当日は曇りのち雨ということで、雨の場合を想定しエリア変更も視野に入れてトリアージや各エリアの最終確認、暫定対策本部になる事務当直室や正式対策本部となる外来受付ホールの現場確認、必要物品の確認を行いました。

訓練当日は、時折日差しが差し込む蒸し暑い天気となりました。訓練開始1時間前、外来ホールには医師数名が、エリアや受付の確認に姿を現したり、訓練を知らせる事前の院内放送では、事務職員がやや緊張気味に放送するなど、緊張と不安のスタートとなりました。

9時の地震発生放送後、各職場ともアクションカードをもとに行動し、その後各職場から暫定対策本部へ被災状況・患者情報の報告が始まりました。最終報告は予想時間より多少ずれ込



▲ 黄エリア



▲ 黄エリア



▲ 黄エリア



▲ 緑エリア



▲ 緑エリア

みましたが、状況確認は適切に行われていました。

その後正式対策本部が立ち上がり、自主参集職員の受付を始めました。参集職員は医師52名、看護師43名、総計162名にのぼり受付はやや混乱した状況になり、受付方法の改善など反省点が見つかりました。ただ、事前の話合いが効果的となり、各エリアの設営準備はスムーズに行われ、9時30分には被災者受け入れ体制が整いました。

しかし、搬送係の所にはストレッチャーが2台しかなく、急遽他のエリアから移動するなど準備物品の確認が不十分なものもありました。模擬被災者は30名を予定しており、院内の救急車でのピストン輸送とウォークインでの受け入れでした。

正面玄関に設置したトリアージセンターで1次トリアージ後、重症者は赤エリアに搬送されましたが、当初は予定と違うルートで搬送されたり、医師の診察時には、紙カルテがないなどハプニングもありました。

黄エリアでは、切創の縫合を想定し、医師が2名で丁寧に「縫合セットを開けたつもりで…」と声に出しながら、診察、治療を行っている様子が見られました。

時間が経つにつれ徐々に受け入れの要領が得られ、対策本部への連絡、検査や入院などもスムーズに進むことができました。細かい反省点はあったものの全体を通して初回訓練としては十分な成果が得られたと感じています。模擬被災者の受け入れも予定していた11時より10分程度早く終了となり、最後に院長先生から講評を頂きました。

今回は、初めての訓練で災害時の受け入れの体験、各エリアの場所と担当者の割り振り、対策本部との連携という目標は達成できたと思われれます。次年度は目標をレベルアップし、より実践に近い訓練になるよう職員一丸となって精進していきたいと思います。

関係者の皆様、大変お疲れさまでした。そして、来年も頑張ります！

(文責：医療安全管理係長 松田 理恵)



▲ 緑エリア



▲ 黒エリア



▲ 2次トリアージ後CT検査



▲ エリア別機材類



▲ 本 部



▲ 本 部

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 薩田・谷口・田上・吉永・椎原・吉留・菊永・久保・櫻木・田辺・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

